

課題 20 「他の人の気持ち」を考える？

私たちの身のまわりにはさまざまな動物がいます。イヌやネコはもちろん、都内でも少し公園まで足をのばせば様々な野鳥や昆虫を見つけることができますし、明治神宮の森にはタヌキだっています。

では皆さん、タヌキになってみましょう。もちろん、想像の中で構いません。一日を森のなかで遊び、夕日が森の端に消えていくころ、巣穴に戻り、眠りに落ちる前、あなたは色々のことを考えるでしょう。明日はどこに行こうか、何をしようか、他にも色々……。

しかし……。それは本当にタヌキが考えていることなのでしょうか？

問題を分かり易くするように、今度はコウモリになってみることにしましょう。コウモリの中には目の見えるものもありますが、ここでは暗い所で暮らす目の見えないコウモリのことを考えることにします。

皆さんもよく知っているように、目の見えないコウモリは、超音波をレーダーのように用いて空間を認識し、暗い洞窟のなかでも壁にぶつかることなく上手に飛ぶことができます。私たちが目で世界を見ているように、コウモリは耳で世界を「見て」います。しかし、この時、コウモリが「見ている」世界を、皆さんは想像することができるでしょうか？夕暮れの街を飛ぶ時、コウモリは「眼下に広がる」美しい街の景色を「見て」、一体どのような「気持ち」を抱くのでしょうか？

私たちはコウモリが暗闇でも飛ぶことができるその仕組みを「科学的に」解明し、それを知識として語り、学びます。しかしそれは「コウモリが私たちから見てどのような生物であるか」を説明することができて、コウモリの気持ちまでは分かりません。「コウモリ自身にとってコウモリであることがどのようなことなのか」を私たちは知ることはできないのです。

このことはまた、他の動物にもあてはまります。水中で暮らす魚は、エラに水を通すことで水中の酸素を体内に取りこみます。これも良く知られた科学的な知識です。しかし、水中でエラ呼吸をするときに、一体どのような気分がするのでしょうか？

では人間の場合は？

私は私であって、想像力を膨らませることはできても、実際にはタヌキやコウモリ、魚になることはできません。これと同じように、もし私が私以外のなにものにもなれないのだとしたら、私は他の人にもなることができないのですから、他人の気持ちを想像することはできても、本当の意味で知ることはできないのではないのでしょうか。

- (1) あなたが言う「楽しい」と他の人が言う「楽しい」は同じものなのでしょうか。もし同じなら、それはなぜでしょうか。また違うのなら、それはなぜでしょうか。あなたの考えとその理由を、ノートにまとめてみましょう。
- (2) もしかすると私たちは本当の意味で「他の人の気持ち」を知ることができないのかもしれませんが、しかし、他の人に共感するということは、本当に不可能なのでしょうか？あなたの考えとその理由を、ノートにまとめてみましょう。